

練馬区の将来像を考える区民懇談会  
健康福祉分野分科会  
第6回 議事概要

日時：平成20年1月21日（月）18:30～20:30

場所：練馬区役所本庁舎19階 1903会議室

出席者

秋元和子、井戸公近、伊部美佐子、岩月裕美子、片岡豊子、金子禎子、河本道雄、木村昭彦、小林幸江、酒井政子、戸田了達、中島加代子、林真未、宮下智行、森下叔彦

1. 討議

(1) 本日の進め方・最終報告に向けた検討の進め方について

ーコーディネーター、事務局（コンサルタント）より、本日の進め方及び最終報告に向けた検討の進め方について説明がなされた。

(2) 全体討議

ーコーディネーターより、他分科会から寄せられた意見が紹介された。次に、他分科会から検討の要望があった事項「健康づくり」および、中間報告を踏まえて今後検討したい事項などについて、意見提出シートの記入内容をもとに各委員より発表を行った。

ー詳細は別紙（「第6回健康福祉分野分科会 意見提出シート回答整理結果」）参照

(3) グループ討議

【各グループ参加者（50音順）／グループ名は各グループの将来像】

\* 「悩みや不安を身近で解消できる地域社会」グループ

：伊部美佐子、岩月裕美子、金子禎子、河本道雄、小林幸江、中島加代子

\* 「子育てする人が引っ越してきたい街 長く住み続けたい街」グループ

：秋元和子、井戸公近、片岡豊子、戸田了達、林真未、宮下智行

\* 「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らせるまち」グループ

：木村昭彦、酒井政子、森下叔彦

#### (4) 発表

—各グループの討議結果を発表した。

##### \*「悩みや不安を身近で解消できる地域社会」グループ

###### 【発表】

- ・これまで検討してきた「地域の総合相談窓口」に関する提案内容をまとめた。
- ・地域の総合相談窓口は、区民の情報発信基地も兼ねている。副題の通り、妊婦さんからお年寄りまでを含めた区民の情報発信基地であり、行政や各専門機関にもつながっていく相談場所でもある。
- ・地域の総合相談窓口では、できれば食事を提供し、訪れる人同士をつなげる場としたい。食べる場所があれば、地産地消の実現も可能となる。
- ・地域における個々の民間の活動が、相談窓口で情報を得ることにより、行政のバックアップが得られる活動へとつなげていく可能も生まれる。また、小さな子どもを持つ親が、そこでお年寄りの知恵を得ることもできるなど、様々な人同士の交流もできるようにしたい。

—詳細は別紙（「第6回健康福祉分野分科会 グループ討議結果」）参照

###### 【質疑】

###### ○委員

- ・行政が取り組むべきこと、区民・ボランティアで取り組むべきこと、協働で取り組むべきことなどの役割分担はどのように考えているのか。

###### ○委員

- ・総合相談窓口のセンターの運営は、区民主体で行いたい。一方で、場所は行政に提供してもらい、運営資金は民間に協賛金を募りたい。
- ・食事の提供については、「食のほっとサロン」を拡大したイメージを持っている。食べる場所を提供することで人も集まりやすくなる。

###### ○委員

- ・区による取り組み、区民による取り組みは数多くあるので、ITを活用し、総合相談窓口に来られない人でも情報を得ることができるようになりたい。

##### \*「子育てする人が引っ越してきたい街 長く住み続けたい街」グループ

###### 【発表】

###### ○委員

- ・子育てを中心に話し合っているが、地域の総合相談窓口と同じ発想になりつつある。
- ・「子育てする人が引っ越してきたい街 長く住み続けたい街」を実現するためには、子育て中の家族を支援する様々な既存の資源を広く知らしめることが重要である。しかし、

既存の子育て拠点は、それぞれ同じような子育て支援の機能が求められ、また、それぞれ同じような努力をしているため、機能や努力に重複がみられ、無駄が多いのではないかという意見が出された。

- ・こうした子育て拠点の重複を避けるためには、小学校の校舎・校庭ほどの規模を持つ子どものためのセンターが必要だと考えている。センターの中には、区による子どものための相談窓口があり、また、保健や保育の相談窓口もある。また、相談時に子どもを預かってくれる保育施設も含まれる。校庭の一部には雑木林などの遊び場もある。子どものことで困ったことがあれば、何でも相談でき、解決策を見つけることができる、子育て支援のデパートのようなイメージである。
- ・小学校の統廃合が進む中で、空き校舎等を活用したセンターづくりが今後10年の間に実現できるとよい。また、学校施設の活用が難しくとも、同じ地域の中で、身近な範囲で子育てに関する機能をまとめていくことはできるのではないか。その方向性だけでも打ち出していけるとよい。
- ・また、器の提案だけでなく、地域の既存資源を把握しており、様々な相談や資源の活用方法を提案できるコーディネーター人材を充実させていくことも必要である。

## 【質 疑】

### ○委員

- ・地域に点在する資源をつなぐコーディネーターの役割は、「地域の総合相談窓口」の提案とも相通ずるものがある。うまく、提案の連携が取れるとよい。

### ○委員

- ・「子育てする人が引っ越してきたい街 長く住みたい街」グループによる小学校の空き校舎等を活用した提案は、区中心の取り組みだが、「地域の総合相談窓口」グループの提案は、全ての取り組みが区民主体である点が異なるのではないか。

### ○委員

- ・区も区民も協働して取り組む形にしないと、区の取り組みだけでは活動の制約が多くなる点に留意が必要である。

### ○委員

- ・小・中学校の統廃合は都市計画に基づくので、都市計画の変更が必要である。学校跡地活用の構想は、これからいろいろな案が出てくるだろう。

## \* 「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らせるまち」グループ

### 【発表】

#### ○委員

- ・ 障害者に関する取り組みの基本的な方向性は、中間報告の通り「あらゆる世代が基本的人権を理解し、守ることで、高齢者、障害者に対する理解の輪を広め、地域における専門家を含めたネットワークの形成をめざします」ということである。
- ・ 目標は、基本的人権の尊重と、自己実現を図ることである。この目標を実現するための方向性は、個人に対する働きかけと、社会に対する働きかけに分かれ、それぞれを充実していく必要がある。
- ・ 個人に対しては、ひとり一人に対するきめ細かな医療、福祉など、あらゆる角度からの働きかけが必要である。
- ・ 社会に対しては、障害者が地域社会に復帰して、他の人と同じ考え、リズムで生活していけるよう、周囲の偏見をなくし、障害者に対する理解を深めるための働きかけが必要である。そのためには、地域における専門家を含めたネットワークを通して、区民と行政が一緒になって地域社会を変えていくことが必要である。障害者の家族、周囲の人々だけでなく、専門家・行政を含めた地域全体のネットワークを形成し、問題の解決に取り組んでいくことが必要である。

## 2. 次回の検討の進め方について

#### ○委員

- ・ 3つのグループの発表を聞いて、健康福祉分野分科会として1つの同じ方向を向いているように感じた。
- ・ 今までの相談窓口は、高齢者福祉、障害者福祉、教育委員会など行政分野ごとに分断され、また、窓口自体も物理的・心理的に遠いイメージがあった。
- ・ 3つのグループの提案内容の共通点は、ホテルのコンシェルジュのような問題解決のための窓口機能が、身近な入口として地域に存在している点である。そうして、子育て中の家族や一人暮らし高齢者、障害者の家族など様々な悩みや問題をもった人たちが気軽に入ることができ、問題解決に必要な既存の取り組みや地域の専門家などに関する情報を得ることができ、新たな地域のネットワークの形成にもつながる。

#### ○コーディネーター

- ・ ご指摘のように3つのグループの提案は同じ方向を向いている。次回は最終回になるので、3グループばらばらで議論するのではなく、分科会全体で提言内容に関する不足点について議論を行ってはどうか。

(拍手により了承)

- ・また、グループの議論の中で、区の取り組みがわからないという意見がみられた。これまでの提案内容に関して、区の既存の取り組みをチェックする作業を行ってはどうか。

#### ○委員

- ・健康福祉分野で、現時点で区が取り組んでいる事業を整理して用意してほしい。

#### ○コーディネーター

- ・具体的な提案内容に関連する事業に関して、事務局と相談の上、次回整理したものを用意する予定である。

### 3. その他

#### ○事務局

- ・他の分科会へのご意見がある方は、「他の分科会への意見提出シート」により、郵送・ファクスまたはメール（様式自由）で提出してもらいたい。
- ・次回は分科会として最終回となる。2月14日（木）18:30～に開催予定である。

（以上）